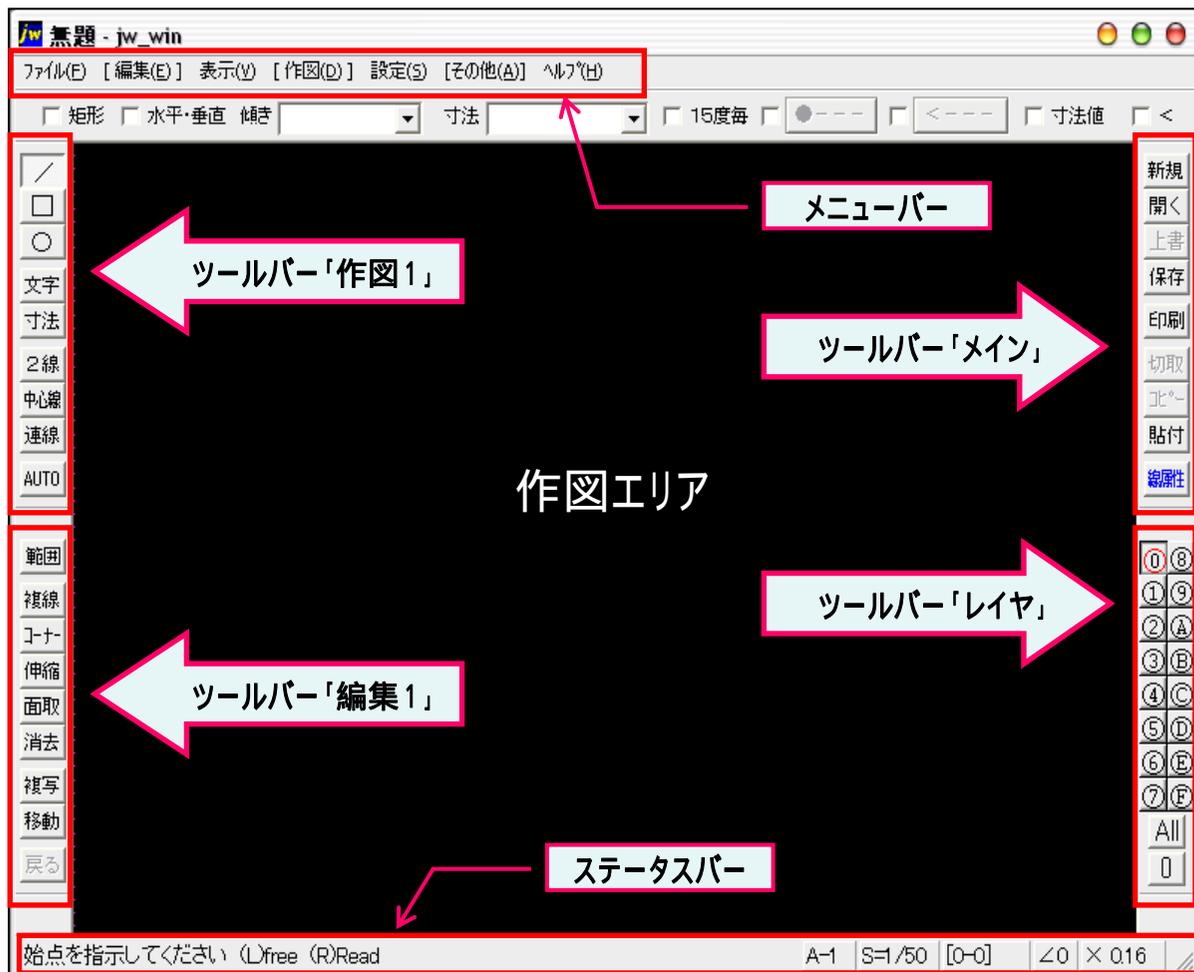


1-1. JW-CADを起動してみよう

JW-CAD(Ver5.02a)初期起動時の画面です。(ここでは画面の構成を簡単に見ていきます。)

- 1.各ツールバーの配置位置は気にしないでください。
- 2.表示されていないものがある場合も次項で表示方法を説明しています。



ツールバーについての概要・・・各コマンド(操作)はメニューバーからも選択できます。

ツールバー「メイン」

主に図面を開いたり保存したり印刷する作業に使用します。

ツールバー「レイヤ」

レイヤの表示を操作できます。(0～Fまで計16枚操作できます。)

レイヤグループ・レイヤについては補足「6-1」で説明していますが、1つのレイヤは透明な用紙1枚をイメージしてください。

ツールバー「作図1」

各ボタンの見た目どおり、線を引いたり文字を入力する基本操作に使用します。

ツールバー「編集1」

作図した線や図形を加工していく作業に使用します。



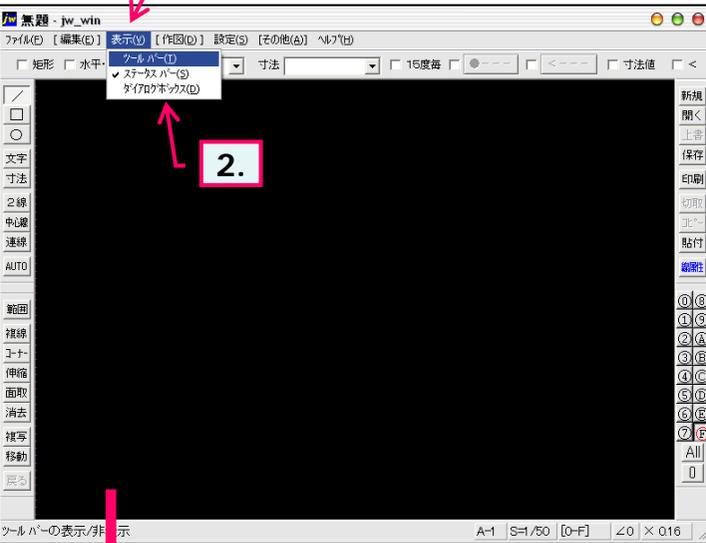
ステータスバー

1-5(1)～(6)で説明しています。

1-2. 表示されていないツールバーを表示する(1)

まず作図作業を進めていく上で必要と思われるツールバーを追加表示してみましょう。

1.



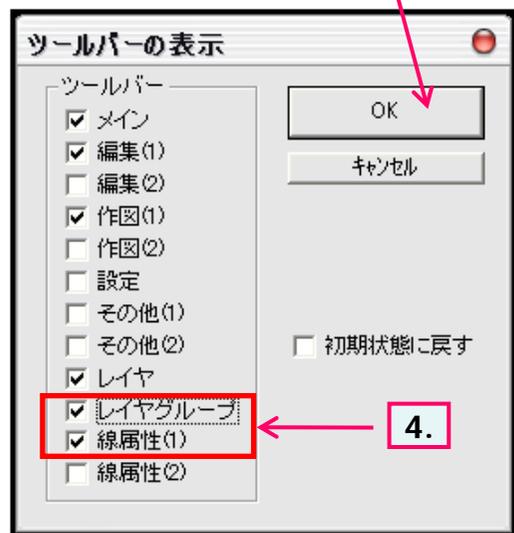
2.



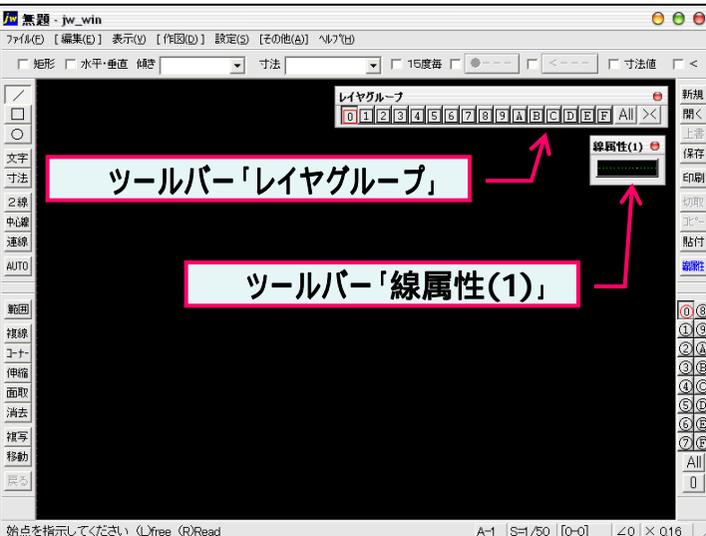
3.

1. メニューバーより「表示(V)」をクリックします。
2. 項目より「ツールバー(T)」をクリックします。
3. 下図のように「ツールバーの表示」ウィンドウが登場します。
4. 追加表示させたいツールバーをクリック(チェック)します。
ここではレイヤグループ・線属性(1)です。
5. 「OK」ボタンをクリックします。

5.



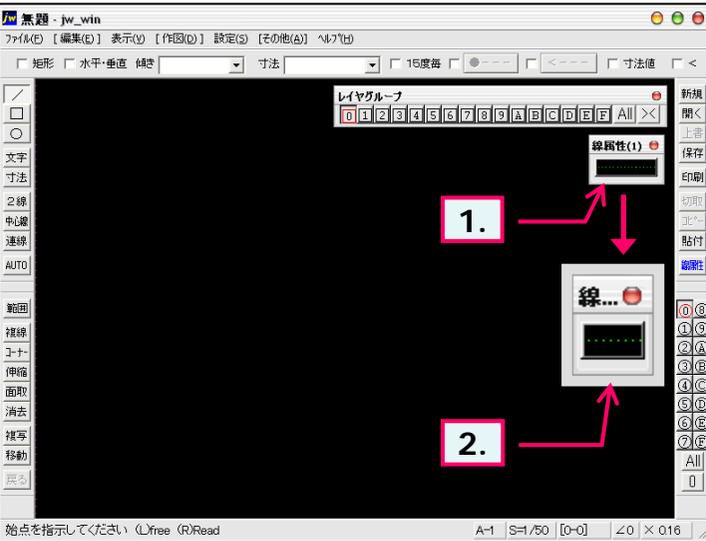
4.



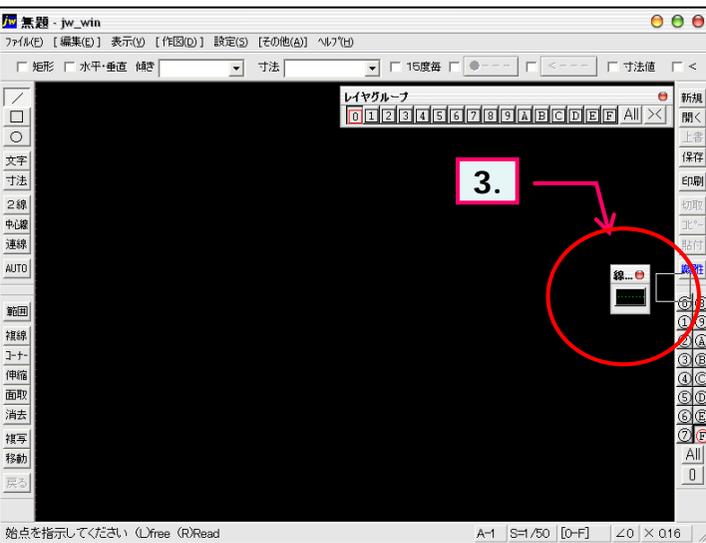
- 左図のようにツールバー「レイヤグループ」・「線属性(1)」が表示されました。
- レイヤグループ**
レイヤとともに補足「6-1」で説明していますが、透明な用紙(レイヤ)16枚重ねたものを1グループとして、合計16グループの表示を操作できます。
- 線属性(1)**
現在選択されている線の色・線の種類が表示されています。

1-3. ツールバーを格納する

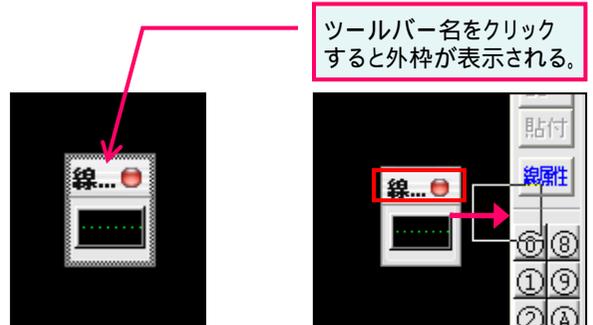
ここでは作図エリアをなるべく広くするため「線属性(1)」をツールバー「メイン」の下へ格納してみましょう。
一例ですので実際の作図作業を進めていく上で各自使いやすい位置へ再配置又は格納してください。



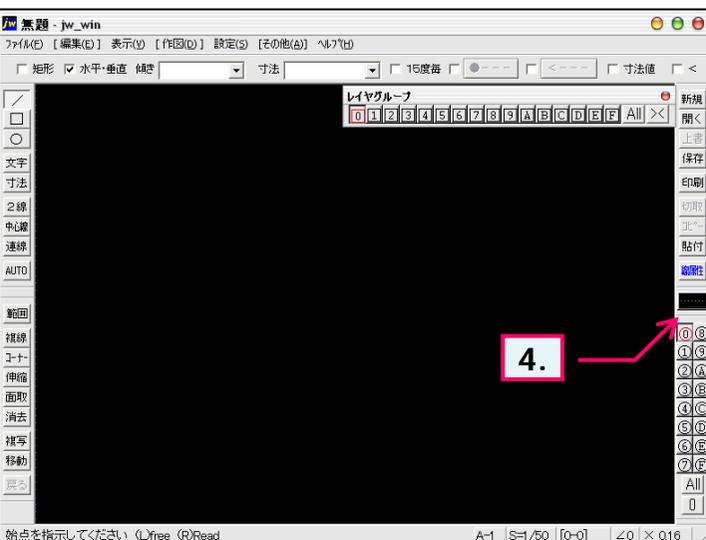
1. 「線属性(1)」ツールバー外枠の右辺か左辺へマウスカーソルを運び、カーソルの形が  の表示になったら、反対の辺方向へマウス左ボタンでドラッグして縮めます。
2. 図のような巾にします。



3. ツールバー名(ここでは線...と表示されている箇所)をマウス左ボタンでクリックし外枠を表示させ、そのままドラッグしてレイヤツールバー上部付近でボタンを離します。



3. 部分拡大



4. 左図のようにツールバー「線属性(1)」が格納されました。



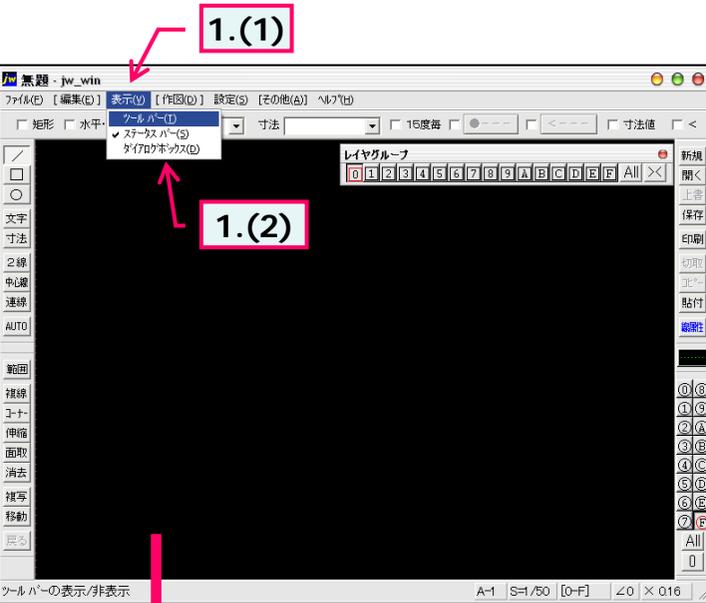
 ツールバー名をダブルクリックしても格納できませんが、JW-CADの使用状況によって格納される場所がそれぞれ違います。

4. 部分拡大

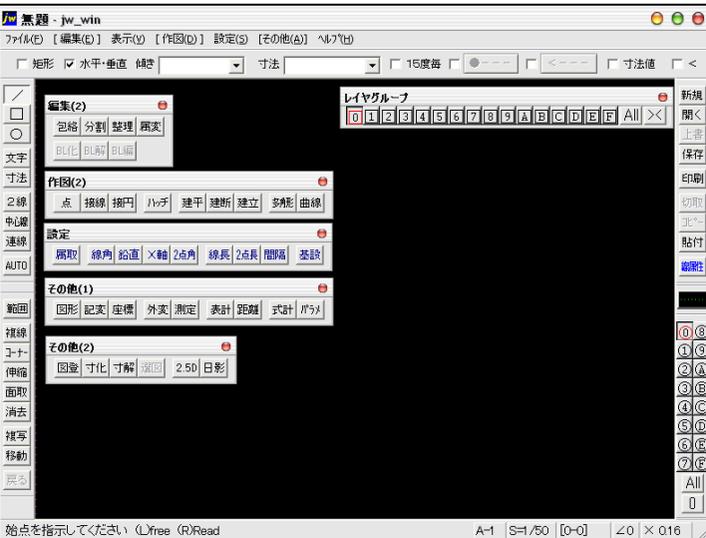
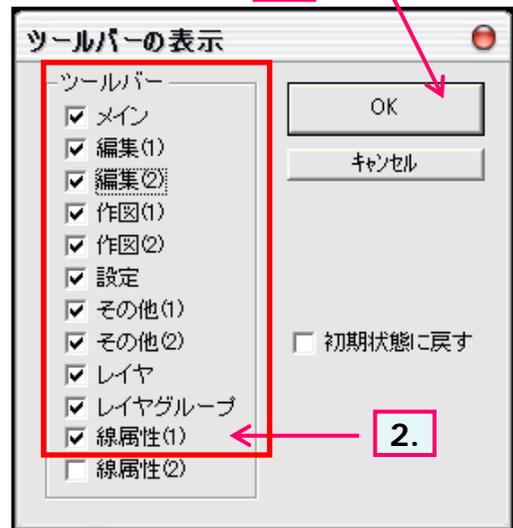
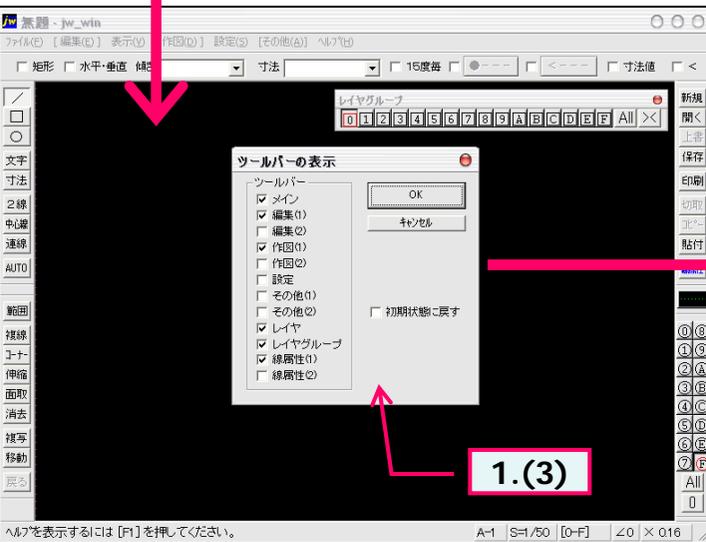
(ここには選択している線色・線種が表示されます。)

1-4. 表示されていないツールバーを表示する(2)

その他のツールバーを表示させてみましょう。



1. 1-2-1と同様にメニューバー「表示(V)」より「ツールバーの表示」ウィンドウを表示します。
2. 表示させたいツールバーをクリック(チェック)します。ここでは線属性(2)以外すべて表示してみます。
3. 「OK」ボタンをクリックします。



左図のようにツールバー「編集(2)」、「作図(2)」、「設定」、「その他(1),(2)」が追加表示されました。

- 編集(2)
- 作図(2)
- 設定
- その他(1)
- その他(2)

現時点で全ての機能を覚える必要はないと思いますので個別の説明は省略いたします。

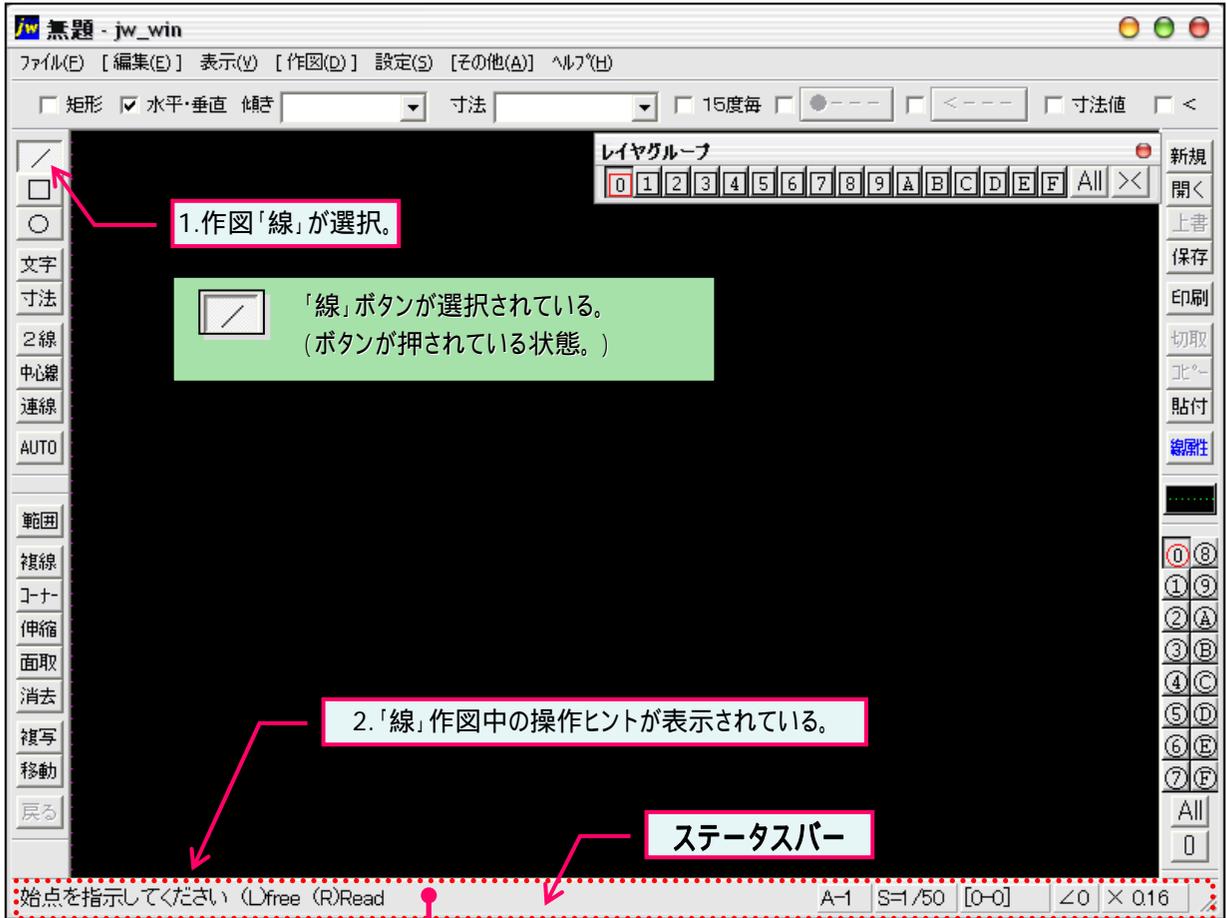
本項で追加表示した各ツールバーは表示のチェックをはずして「1-3」の状態へ戻しておいてください。

1-5(1). ステータスバーに注目してみましょう(1)

ステータスバーには「次に行う操作のヒント」や作図中の「図面情報」が表示されています。

意外と見落とされている方が多いようですが作図中の有効な情報源です。
積極的に活用していくために表示されている内容を理解しておきましょう。

「1-3」でツールバーを追加表示させた時点の画面で説明していきます。



ステータスバー(左側)

始点を指示してください (L)free (R)Read

1. 現在、作図(1)の「線」が選択されている場合です。
2. ステータスバーには「線」を作図する上での操作ヒント「始点(線の始まり)を指定してください」が表示されている。

実際の作図方法は後項で説明していきます。

ここでは操作のヒントが「ステータスバー」左側に表示されていることを覚えておいてください。



(L)free

マウス左ボタンをクリックすると任意の点を始点に指示できます。

(R)Read

マウス右ボタンで交点・端点等をクリックすると始点に指示できます。

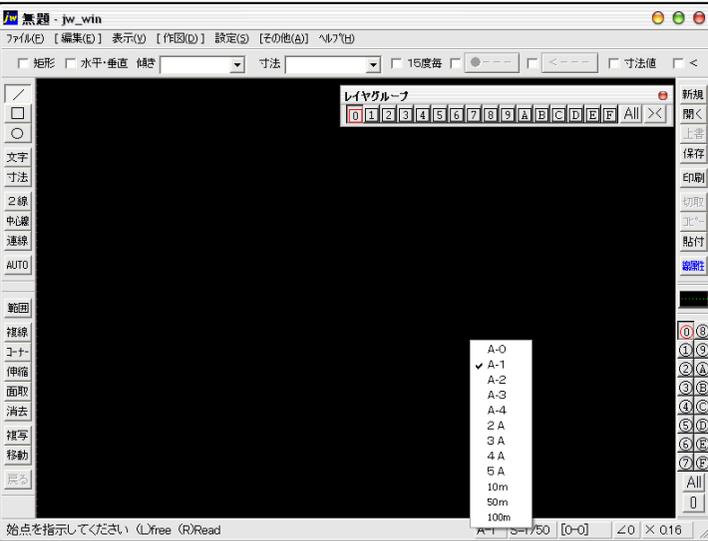
1-5(2). ステータスバーに注目してみましょう。(2)

ステータスバーの続きです。(用紙サイズ)

ステータスバー(右側)



用紙サイズ



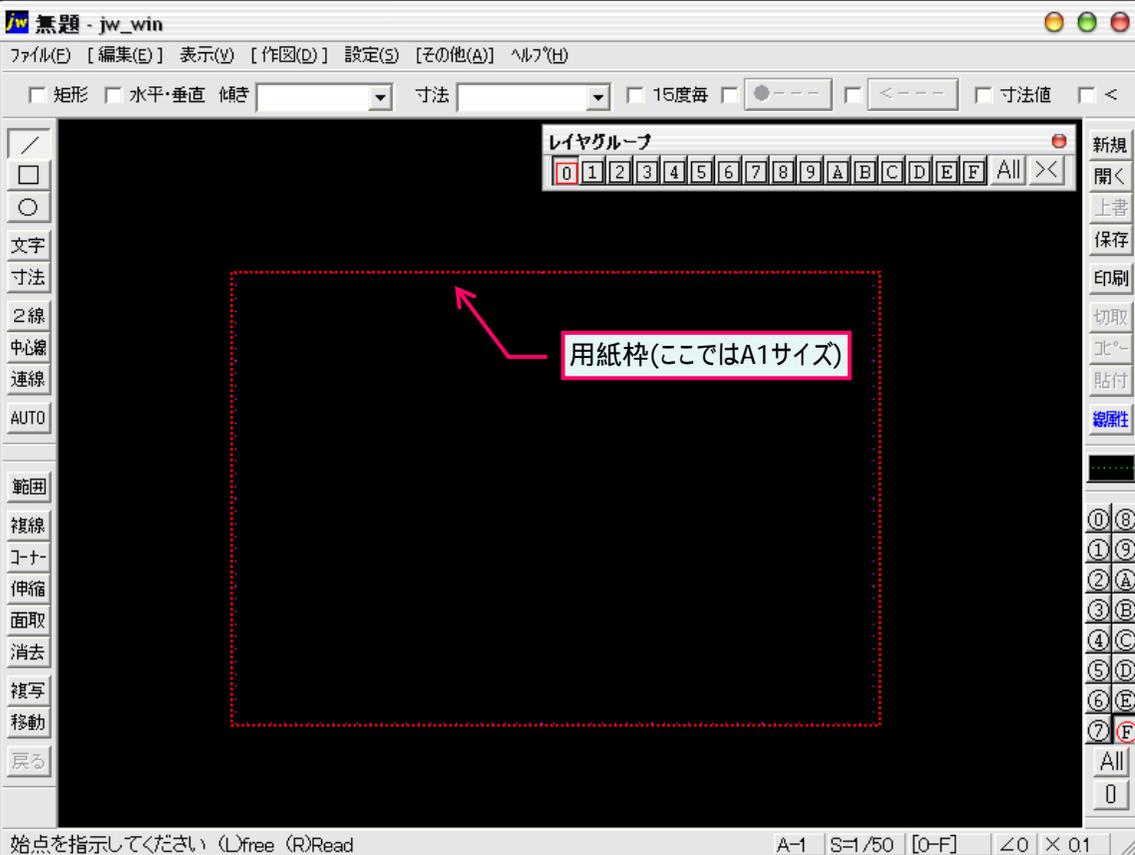
部分には用紙の大きさが表示されています。

ここをクリックすると用紙サイズの選択ウィンドウが表示されます。(現在A1サイズ選択)

変更する場合は該当する用紙サイズをクリックします。

💡 2A=A1サイズ×4枚分
3A=A1サイズ×9枚分
4A=A1サイズ×16枚分
5A=A1サイズ×25枚分

・ 用紙枠(サイズ)を確認してみましょう。



Keyボードのページダウン(PageDown)キー又はホイール付スクロールマウスで画面縮小していくと左図のように赤点線で用紙の大きさが表示されています。

この状態で用紙サイズを変更して用紙枠の大きさが変わるのを確認してみてください。

💡 keyボードやマウス操作で画面縮小できない場合や用紙枠が表示されていない場合は環境設定(2-3で説明)より変更できます。

1-5(3). ステータスバーに注目してみましょう(3)

ステータスバーの続きです。(縮尺)

ステータスバー(右側)

A-1 S=1/50 [0-0] <0 × 0.16

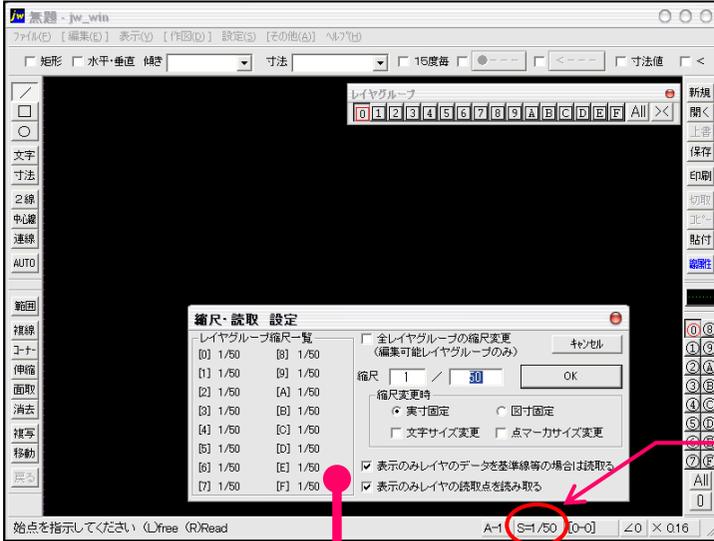
縮尺

部分は作図中(書込み)レイヤグループの縮尺が表示されています。

JW-CADでの縮尺はレイヤグループ(6-1参照)単位で管理されています。

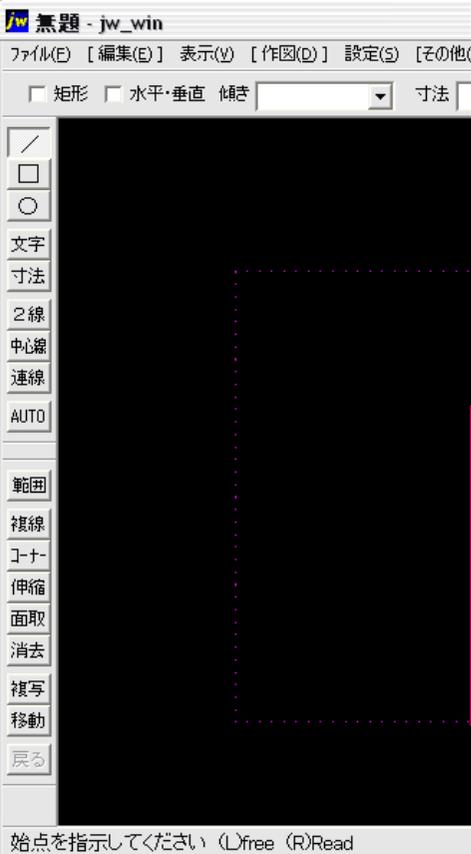
1. ここをクリックすると「縮尺・読取設定」の選択ウィンドウが表示されます。(現在1/50選択)
2. 1/100の縮尺にしたい場合はここに「100」と入力します。
3. OKボタンを押します。
4. 縮尺が1/100に変更されました。

この図の場合、1/50 1/100への縮尺変更ですので、元データがある場合、通常の設定では1/2となります。



1.
2.
3.

縮尺変更後



💡 縮尺変更と同時に行いたい項目です。
通常は「実寸固定」のチェックだけで構わないのですが、1/100の図面を1/50へ拡大して作図したりする時に文字も合わせて大きくしたい場合などにチェックを入れます。部分詳細図を作図するとき等、便利です。

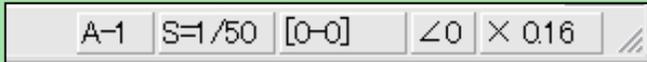
4.

A-1 S=1/100 [0-F] <0 × 0.1

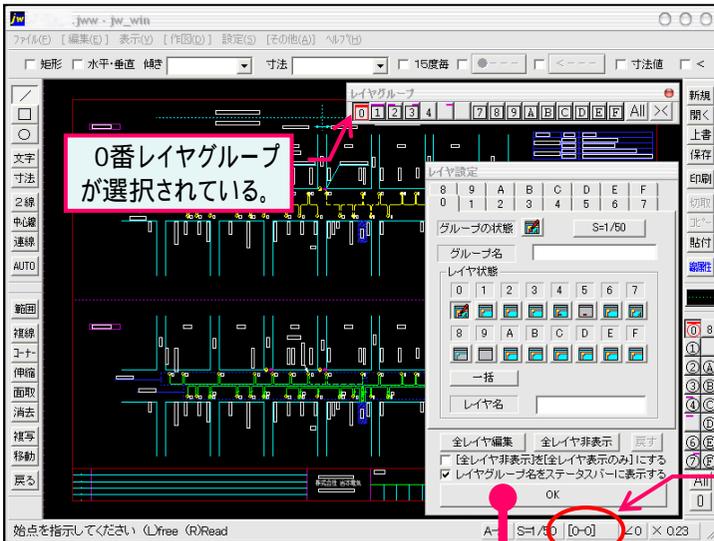
1-5(4). ステータスバーに注目してみましょう(4)

ステータスバーの続きです。(レイヤ)・・・レイヤ操作は、とても重要ですのでしっかり理解してください。
レイヤ・レイヤグループの概要については「6-1」で説明しております。

ステータスバー(右側)



レイヤ・レイヤグループ



ここでは実際にデータが含まれている図面で進めていきます。

部分は書き込み選択中のレイヤグループ・レイヤ名が表示されています。

(上記図ではレイヤグループ・レイヤとも名前が設定されていないので番号のみの表示になっています。)

1. ここをクリックするとレイヤ設定ウィンドウが表示されます。(現在 0番レイヤグループの0番レイヤが書き込み選択)
2. OKボタンで設定が確定します。

1.

レイヤ設定ウィンドウ

書き込み選択中のレイヤグループ番号タブが前面に表示されます。
番号・文字を右ボタンクリックで書き込み選択変更できます。

書き込み選択中のレイヤには下記のマークが表示されています。



番号・文字を右ボタンクリックで書き込み選択変更できます。

空欄の場合はチェックします。



書き込みレイヤグループの縮尺が表示されています。
ボタンを押すと「1-5(3)」と同じ縮尺設定ウィンドウが開きます。

任意のレイヤグループ名を入力できます。注1.

任意のレイヤ名を入力できます。注1.

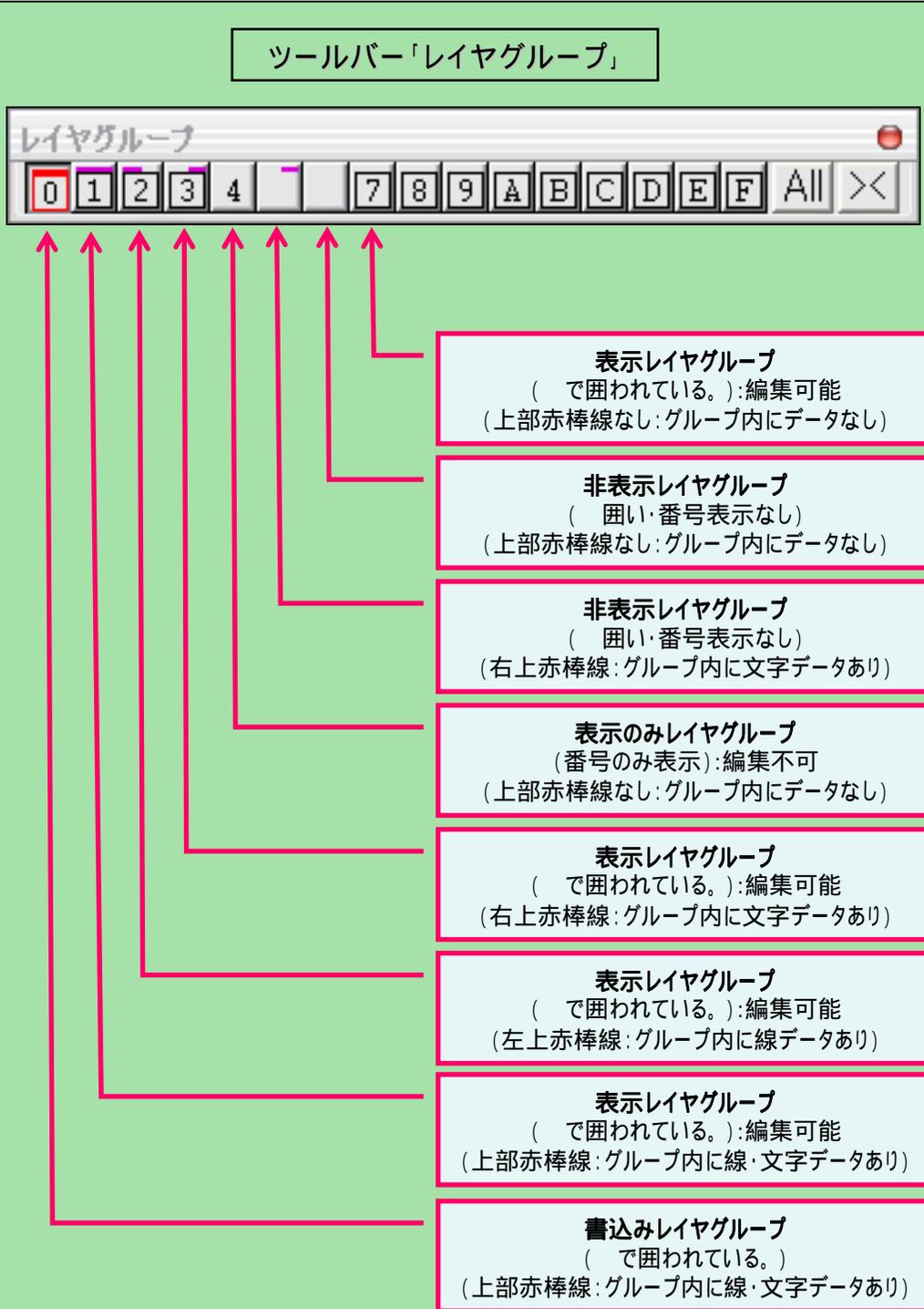
注1
レイヤグループ・レイヤ名は「建築図」・「電気図」・「壁」・「シンボル」等、任意の判りやすい名を付けることができますが、dxf形式等へのデータ変換が必要な場合は、文字化け・変換不良防止のため半角英数での入力をお勧めします。

2.

1-5(5). 補足-1. ツールバーによる「レイヤグループ」操作

ここでレイヤグループの操作を見ていきましょう。

脇道にそれますが、ここでツールバー「レイヤグループ」、次項でツールバー「レイヤ」の表示と状態をまとめておきます。



各レイヤグループの操作は番号ボタンを下記動作にて変更することができます。

・右ボタンクリック:書込みレイヤへ指定。

・左ボタンクリック:非表示 表示のみ(編集不可) 表示(編集可) 非表示の順で変化。

1-5(6). 補足-2. ツールバーによる「レイヤ」操作

(レイヤ操作)の続きです。

前頁と同様にツールバー「レイヤ」と「レイヤ設定ウインドウ」の表示と状態をまとめておきます。

「レイヤ」ツールバー

書込みレイヤ(で囲われている。)
(上部赤棒線:レイヤ内に線・文字データあり)

表示のみレイヤ(番号のみ表示)
(上部赤棒線なし:レイヤ内にデータなし)

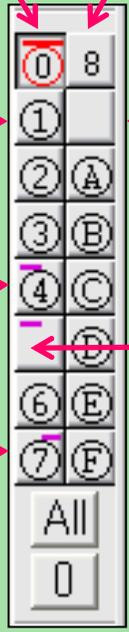
表示レイヤ(で囲われている。):編集可能
(上部赤棒線なし:レイヤ内にデータなし)

非表示レイヤ(囲い・番号表示なし)
(上部赤棒線なし:レイヤ内にデータなし)

表示レイヤ(で囲われている。):編集可能
(左上赤棒線:レイヤ内に線データあり)

非表示レイヤ(囲い・番号表示なし)
(左上赤棒線:レイヤ内に線データあり)

表示レイヤ(で囲われている。):編集可能
(右上赤棒線:レイヤ内に文字データあり)



レイヤ設定ウインドウ



ツールバー、レイヤ設定ウインドウの番号を対比させて相互の表示状態を把握しておきましょう。



💡 各レイヤ操作はレイヤグループと同様に番号ボタンを下記動作にて変更することができます。

- ・右ボタンクリック: 書込みレイヤへ指定。
- ・左ボタンクリック: 非表示 表示のみ (編集不可) 表示 (編集可) 非表示の順で変化。

1-5(7). ステータスバーに注目してみましょう(5)

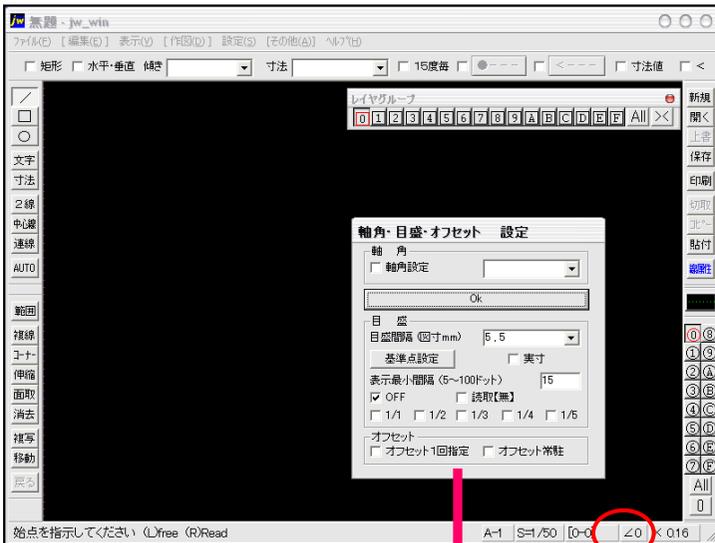
ステータスバーの続きです。(軸角・目盛・オフセット)

ステータスバー(右側)

A-1 S=1/50 [0-0] $\angle 0$ $\times 0.16$



軸角・目盛・オフセット



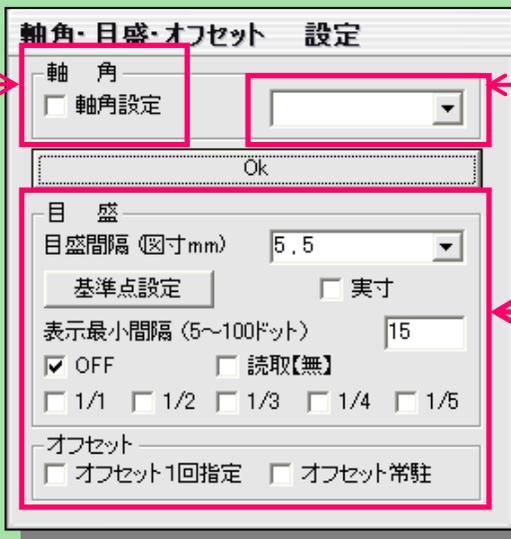
部分は作図中の基準となる角度が表示されています。
(通常の作図では0度が基準ですので 0と表示)

1. ここをクリックすると軸角・目盛・オフセット設定ウィンドウが表示されます。
2. 基準にしたい角度を入力します。
3. 解除するには1.を実行し「軸各設定」のチェックをはずします。

💡メニューバー 設定 角度取得 軸角で図中の任意の線をマウス左ボタンクリックすることにより基準角に設定できます。

1.

3.



2.

目盛・オフセットの機能は現時点で特に必要はないと思いますので説明は省略いたします。

1-5(8). ステータスバーに注目してみましょう(6)

ステータスバーの続きです。(画面倍率・文字表示)

ステータスバー(右側)

A-1 S=1/50 [0-0] <0 × 0.16



画面倍率・文字表示

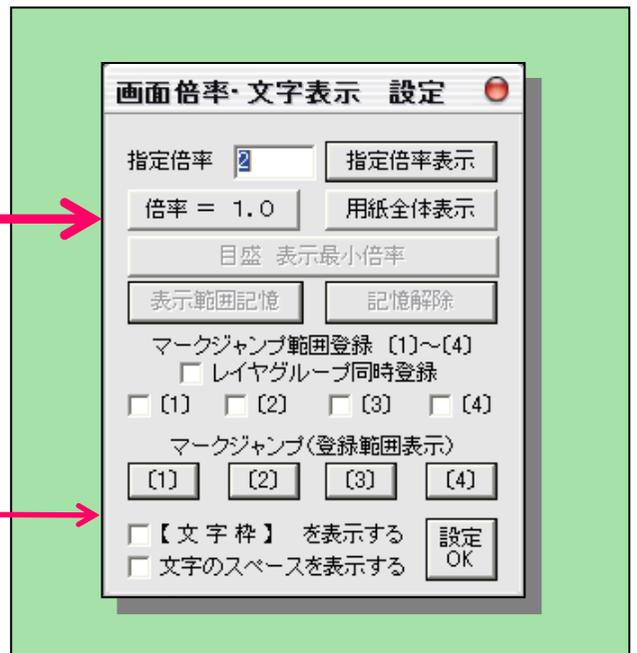


1. →

現時点では特に設定する必要はないと思いますので説明は省略いたします。

部分は画面の表示倍率が表示されています。

1. ここをクリックすると画面倍率・文字表示設定ウィンドウが表示されます。



ここまではJw_cad for Windows の大まかな画面の様子を見てきました。

画面上のどこに何が表示され、どんなことができるのかを覚えていくことで作業効率も、もっとUPしていくのではないのでしょうか。